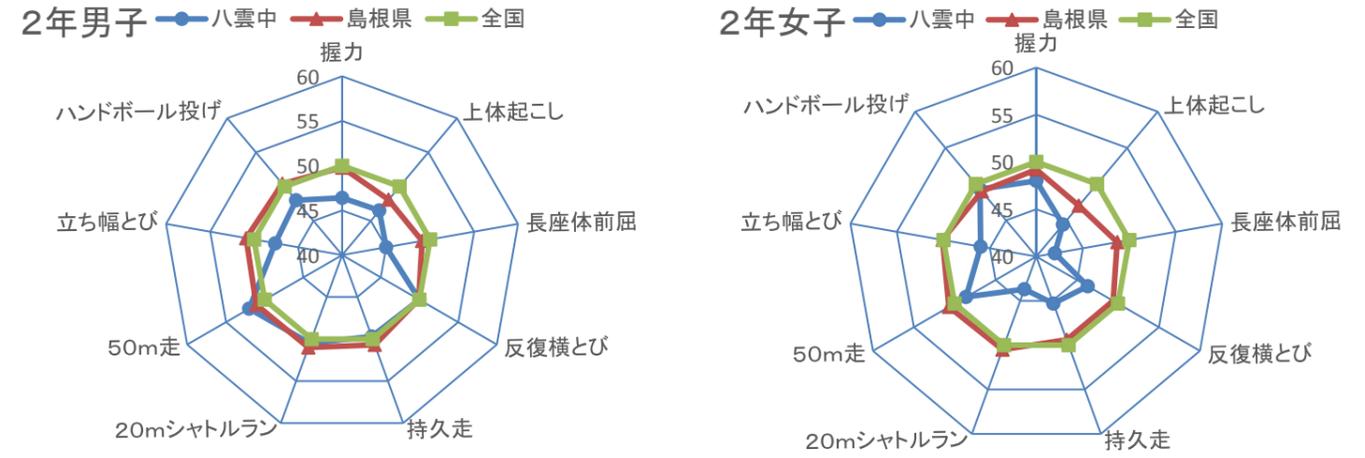


(1)生徒の体力の現状

- 男子は昨年度より全体的に低くなってきているが、項目の半分近くは全国・県平均より上回っている。もしくはそれに近い数値を出している。
- 女子は昨年度より長座体前屈以外の項目において、上回っていた。
- 意識調査で運動が好きと答えている割合が高い割には、中学校卒業後、自主的に運動をしたいと答えている割合が低い。
- 全国・県平均を上回っているのは、男子の50m走のみであった。
- 女子はすべての種目において、全国・県平均を下回った。

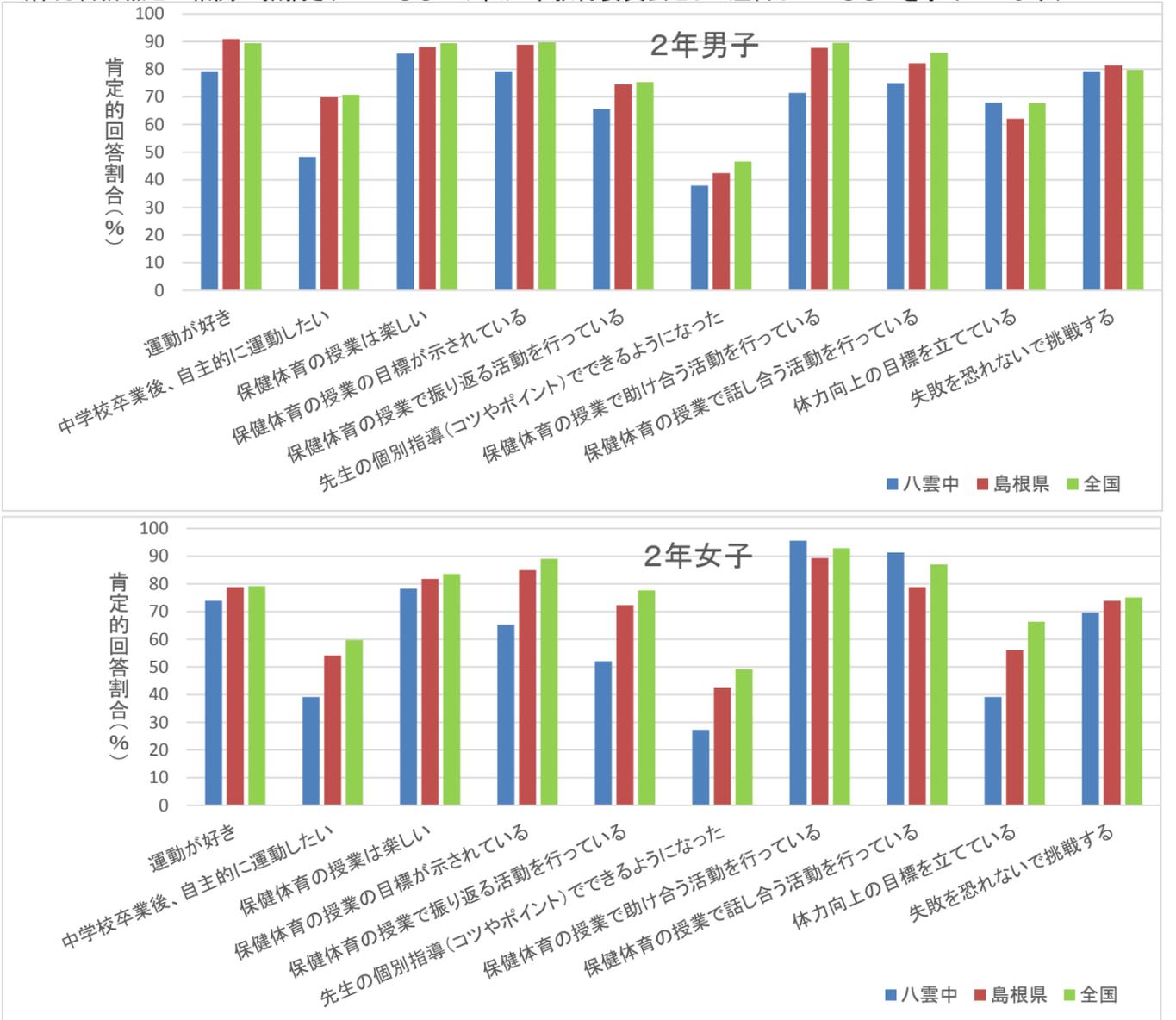
(4)2年生 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果(全国平均を50としたときの比較)



(2)令和元年度の具体目標の達成状況と課題

- 体力向上推進計画で定めた目標について、男子は反復横跳びと20mシャトルランにおいて全学年が目標を達成している。女子は上体起こしと反復横跳びにおいて全学年で目標を達成している。
- 男女とも体力推進計画の目標ライン(新体力テスト1年5点・2年6点・3年7点)を達成できた割合は全体の半分以下であった。
- 体力向上の前提となる、コーディネーション能力がしっかりと身につけていないために、基礎的な運動能力を十分に伸ばし切れていない。小中連携の取組を改善しつつ、継続することが必要である。
- 持久力は中学生の時期の伸ばすべき課題であり、本校でもロードレース大会を行っているが、その成果が出ていない。

(5)全国体力・運動能力調査、運動習慣等調査 2年生意識調査の結果  
(体力合計点との相関が指摘されているものや松江市教育委員会として注目しているものを挙げています)



(3)令和2年度の取組【対策】

- ①学校における取組
  - ・今年度までの目標設定、評価の方法を改善しつつ、継続する。
  - ・「運動好きの体育嫌い」をなくすために、さらに授業改善に努める。
  - ・ストロングポイントをキープしつつ、ウィークポイントの課題を克服するために授業、学校行事、部活動等あらゆる機会を通じて、運動の方法、体力向上の取組を行う。
- ②地域や家庭との連携による取組
  - ・地域、家庭との情報共有を進め、小・中の体力の現状と将来への影響について理解を深めて、体力向上の必要性、具体的方策について啓発することにより望ましいサポートを得る。
  - ・体力向上のためにはトレーニングだけではなく、タイミングの良い栄養摂取および適切な休養が重要であることを踏まえ、家庭との協力体制を構築する。
  - ・地域の協力を得ての活動(ロードレース大会)を改善しつつ継続する。
- ③体力向上をめざした生活習慣の確立、食育推進の取組
  - ・「すこやか健康チャレンジシート」の取組を通じて、生活習慣上の課題を家庭と共有し、改善につなげる。
  - ・「おにぎりの日」、「弁当の日」などの食育の取組を生かし、食と体力向上の知識を行動につなげる。

調査実施者数(人) 1年(男子26・女子26) 2年(男子28・女子22) 3年(男子27・女子23)